校長通信「学ばん共に」

その７「二つの矢を持つことなかれ」(壮行会激励の言葉)

９月２２日　新人戦壮行会　部長の選手宣誓

▸新部長の言葉や選手宣誓に強い思いを感じました。「**意識改革**〈野球〉」「**限界に挑戦**〈ソフトボール〉」「**自己ベスト**〈陸上〉」「**あきらめない**〈男子バスケ〉」「**課題と向き合う**〈女子バスケ〉」「**チームの成長**〈バレー〉」「**全力を出し切る**〈サッカー〉」「**一生懸命**〈卓球〉」「**全力を尽くす**〈剣道〉」「**完璧な演奏**〈吹奏楽〉」「**全員が賞**〈美術〉」「**家族に感謝**〈パソボラ〉」「**それぞれ全力で取り組む**〈校外活動〉」…どれもいい言葉です。そして、これらの言葉は、応援団のエールに励まされ、今１人１人の心の中で熱をもち、部員全員、そして、多くの可美中生の心に届きました。

▸皆さんは覚えているでしょうか。部活見学で先輩の姿を見てこの部に入ろうと決めた時の気持ち。新しいユニフォームや防具、シューズを身に着けた時の気持ち。新しいグローブやラケット、そしてバットを手にした時の気持ち。楽器から初めて音が出せた時の気持ち。少しずつタイピングがうまくなってきた時の気持ち。入部した頃の気持ちをどうか思い出してください。それが本番にのぞむ時、大切な力になることでしょう。「初心忘れるべからず」です。これらは３年生の受検にもつながるものです。

▸中２の国語で『徒然草』という古文を学びます。その『徒然草』に、教科書には載っていない、「二つの矢」という話があります。ちょっと古文を読んでみます。「**初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢をたのみて、始めの矢になおざりの心あり。毎度ただ後の矢なく、この一矢にさだまるべしと思え。**」…これを現代語に訳すと「**初心者は二本の矢を持っちゃいかん。次の矢があるからいいやと一本目の矢に気合いが入らなくなる。常に一本目の矢で決めようと思いなさい。**」という意味です。この話は部活動の毎日の練習にもあてはまります。「今日は少し手を抜いたっていいや、明日の練習でがんばればいいや。」そういう甘い気持ちで取り組んでいる人はなかなか上達しません。「今の練習が大事だ。これをがんばれば必ず本番で力が出せる。」という気持ちでいつも取り組む人は、一歩一歩確実に成長します。

▸さて、新人戦に出場するみなさん…準備はできていますか。どうしたら力を出し切れるか…そのための手順や方法を身につけていますか。正直、自信がないという人もいることでしょう。その人は今日からの練習をひたすらがんばりましょう。明日から大会が始まる部もあります。顧問の先生やコーチの言葉をどれだけ信じて練習に臨めるか…そこに力を出せるかどうかの分かれ目があります。夏の大会までは全てがリハーサルです。

▸よいリハーサルにするためには、「自分を信じ、仲間を信じ、精一杯のチャレンジをすること」が大切です。一流の選手になるのは大変ですが、一流のチャレンジャーにはなれます。気持ちを整え、あいさつや身なりをきちんとする…そこから始まります。あえて言うなら一流のチャレンジャーは決して言い訳をしません。どんな結果が出ても、潔くいい目をしています。可美中魂を受け継ぐみなさんの挑戦を心から応援しています。私の話は以上です。最後まで聞いてくれて、ありがとうございました。

（北村健治）

****

新人戦が始まりました。池野教頭と手分けをしていくつかの会場に足を運んでいます。勝ち負けに限らず、夏の練習の成果を感じるプレーや生徒たちの真剣な表情に胸が熱くなり、心を強く揺さぶられました。子供たちの笑顔と真顔に大きなエネルギーをもらいます。そして、喜びや悔しさを共に分かち合う中で深まる絆…教育の原点がそこにあります。

また、多くの保護者の方々が応援に来てくださり、大変ありがたいと感じました。夏の大会と同じように、みなさんの支えによって部活動が成り立っていることを改めて実感します。私たち教師はそのことに感謝し、決して忘れてはならないと思います。